

増え続ける空き家に対する町の対策は

笠原 則孝



町長

関係機関等に情報提供を求め 空き家の把握に努める



急がれる空き家対策

質問

今や日本全体で820万戸以上の空き家がある。空き家対策特別措置法が公布されたが、町はどのように対応するのか。また、空き家バンク等の設立は考えているのか。

答弁

町長 町内の空き家軒数を把握するため、関係機関に事前調査を実施し、それと不足する部分は各区より情報収集したい。また、空き家の所有者に対しては適正な管理をお願いしていく。

答弁

都市建設課長 今後は空き家対策計画を策定し、

空き家の抑制や利活用を進めていく。また条例制定に向けても検討していく。

企業版ふるさと納税に対する町の取り組みは

質問

政府は地方創生応援税制としてふるさと納税の企業版を創設した。企業版ふるさと納税を呼び込むようなアイデアはあるのか。

答弁

町長 町では現在、玉村町版生涯活躍のまち（※1）の構想づくりを行っている。この構想を基に具体的な事業の企画立案が可能となれば、地域再生計画を作成し、寄附対象の事業として認定申請を行い、企業に向けて寄附の依頼をしたいと考えている。

定住化・人口増加への取り組みは

質問

定住化、人口の増加を図る施策は。

答弁

町長 町では昨年玉村町まち・ひと・しごと人口ビジョンと総合戦略を策定した。人口ビジョンの長期的展望では人口減少を示しており、総合戦略で人口減少への対策とまちの発展に向けた道筋を示している。

総合戦略の施策には「家族形成支援の充実」があり、独身男女の交流機会の提供を今年度も実施した。今後も未婚率上昇に歯止めをかけるべく、婚活支援事業を実施したい。

答弁

経営企画課長 町では若い独身男女の交流イベントを7月29日に実施した。今後は10月と12月に開催を予定している。

※1「玉村町版生涯活躍のまちとは」

ファミリー層からシニア層までの幅広い年齢層に対応する玉村町独自のCCRC構想。健康時から介護時まで継続的にケアを提供する共同体を「CCRC」といい、国は日本版CCRCを「生涯活躍のまち」と名付けて地方創生の柱としている。